

# 地域懇談会

## 新たな生涯学習施設の利活用と

## 町ぐるみの人材育成

-館から環へ-

縮充のまちづくりとこれからの人づくり

3月21日(金)午後7時～  
農村環境改善センター2階研修室

3月23日(日)午後1時30分～  
井ノ口公民館2階研修室



ドローンで撮影した役場周辺(令和6年3月)

# 地域懇談会

## 今回の内容

1. 新たな生涯学習施設に向けて
2. わいがやサロンと基本構想
3. 設計者選定プロポーザル
4. 中期財政推計に向けて
5. ”わいがや”から”わがこと”へ



わいがやサロンの様子(note「中井町わいがやサロン」(以下、note)より)

# 検討開始から20年近く

## 新たな生涯学習施設に向けて

- 「本町における生涯学習・地域交流拠点として、「農村環境改善センター」「井ノ口公民館」「境コミュニティセンター」がその役割を担っていますが、施設が手狭な点、バリアフリーの対策が不十分な点、施設用途や利用者が限定されている点など、本町の生涯学習・地域交流機能を果たすために十分な拠点施設が存在しない」
- 「検討初期段階に児童・生徒であった子ども達はすでに成人していることを重く受け止め、時間こそが重要かつ有限な資源であることを踏まえ、迅速に検討を進め実現を図っていきます」

### これまでの検討経緯

平成18～19年度	生涯学習施設等整備検討会
平成20年度	既存建物(農村環境改善センター)の増改築及び新築を検討
平成21～22年度	生涯学習施設等整備検討委員会
平成23年度	生涯学習施設建設準備委員会
平成27年度	第三次中井町生涯学習基本計画 ＞生涯学習に関するアンケート調査
平成28年度	中井町生涯学習施設建設基本構想
平成29年度	中井町社会教育委員会議「生涯学習施設ワークブック」
平成30年度	中井町議会「図書室の抜本的改善を求める決議」

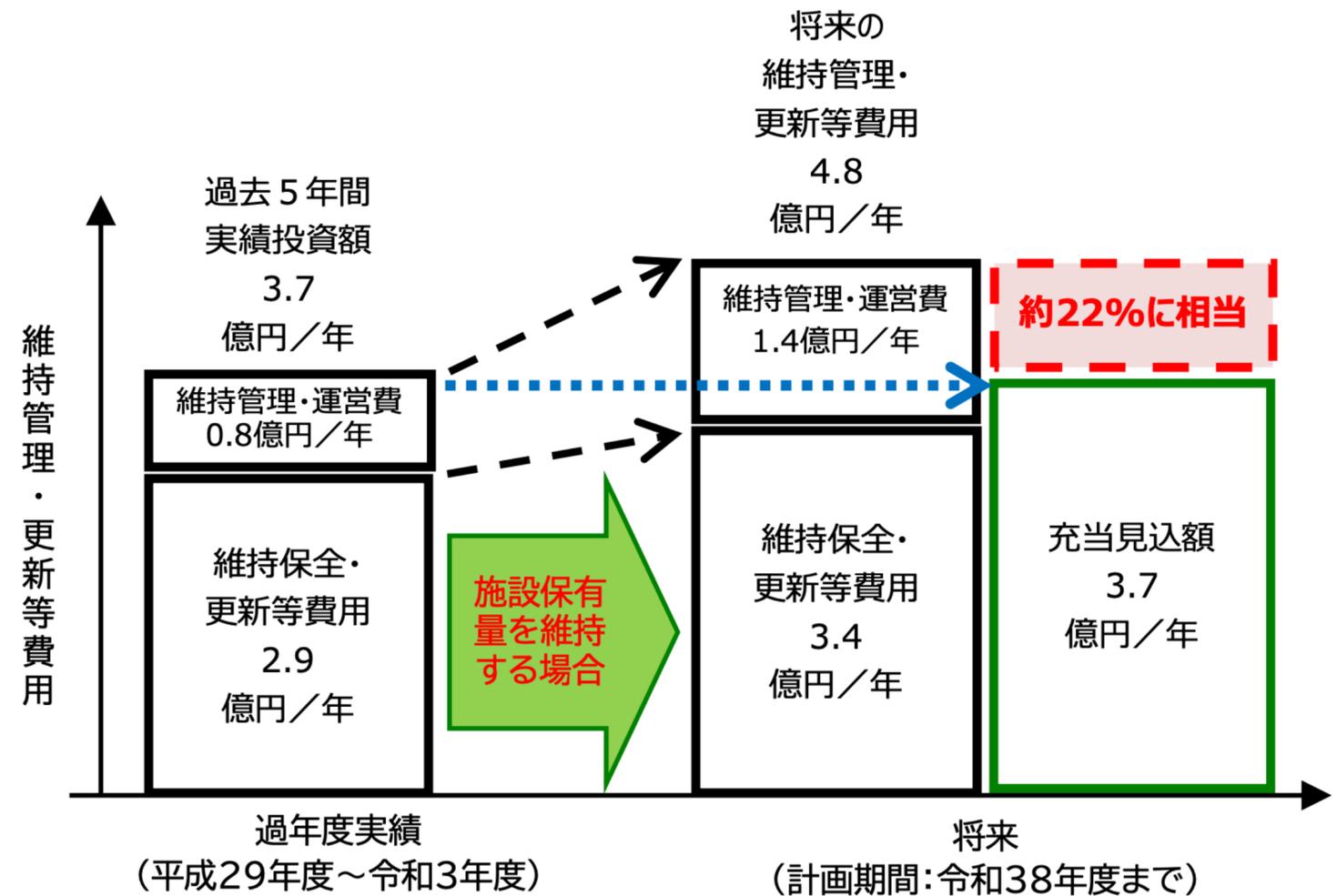
# 縮充のまちづくりの中で

## 新たな生涯学習施設に向けて

人口減少の課題…今後の人口減少や少子高齢化の進行により、公共施設等の利用需要が変化していくことが見込まれます

老朽化の課題…令和4年4月時点で築30年以上の施設が総延床面積の約77%を占めています

縮充のまちづくり…「公共施設等総合管理計画」(5年毎見直し)で示された課題を踏まえ、量的な**縮**減と共に質的な**充**実による視点で町民サービスを低下させない持続可能なまちづくりが不可欠になります



計画期間内での建築物系公共施設の更新等費用見込み額(4.8億/年)に対して、維持管理・更新等費用見込みに見合った総量の試算(過年度実績3.7億/年)に相当する約22%を縮減目標とします

# 川向こうから比奈窪56へ

## 新たな生涯学習施設に向けて

- 「平成28年度版生涯学習施設建設基本構想」で想定された建設予定地(役場から中村川を挟んだ比奈窪バイパス沿い)から、農村環境改善センターでの更新とした。
- 市街化調整区域の制限等に伴い、公民館として郷土資料館周辺を建設予定地に。改善センター跡地の利活用を含め、役場周辺拠点整備「hinakubo56プラン」による、利便性や一体性の付加価値向上を図ります



# わいがやサロンの挑戦

## わいがやサロンと基本構想・基本計画

- 先進事例視察や美・緑なかいフェスティバルでの意見聴取を含め、6回にわたる町民ワークショップわいがやサロンには、既存の利用団体のみならず、生涯学習等に関心を持つ町民等、のべ475人が参加しました
- 最終回では、これまで出された56の提案やアイデアに込められた期待や願いを、4時間近くかけ、それぞれ公民館としての要件や予算、想定面積、建築技術的な問題といった制約と照らしあわせ、合意を取りながら基本計画に書き加えました

行政ありき箱ありき→人ありき活動ありき



新しいハコモノ(施設)を建てる時、よく開催されるのが有識者会議。でも、本当に必要なのは、それを使う人たちの声です。わいがやサロンは参加者みんなが検討委員会のメンバーです

# 基本構想のコンセプト

## わいがやサロンと基本構想・基本計画

生涯学習・地域交流拠点として、多世代・多文化の人々が集い、学び、憩い、寛ぎ、交流することで、賑わいと地域への愛着を育む生涯学習施設をめざし、

学びから始まる「里都まち♡なかい」  
交流のシンボル

を理念に3つのキーワード(右図参照)と諸機能を含む、公民館、図書館、郷土資料館を併せ持つ融合施設を構想

町民が気軽に立ち寄れる地域交流の拠点

『集う×憩う』

多様な学習や芸術文化活動などの生涯学習の拠点

『学ぶ×教える』

既存施設の連携を生み出す地域連携の拠点

『繋がる×交わる』

集う×憩う→交流機能、多目的ホール  
学ぶ×教える→図書館機能、学習機能  
繋がる×交わる→連携機能、融合機能

# 33の応募を得て設計者選定

## 設計者選定プロポーザル

- 基本設計、実施設計に向け、役場周辺拠点の再整備「比奈窪56プラン」を含めた、設計者を選定する「中井町のこれからの社会教育に資する生涯学習融合施設(仮称)設計者選定プロポーザル」が令和6年12月3日に公告され、若手建築家を中心に33者が応募
- 12月26日に第1次審査が行われ、5者が翌2月15日の第2次審査公開型プロポーザルに進む

設計者選定プロポーザル…建物の設計案を選定するコンペとは異なり、今後のパートナーとなる設計者の選定が目的



- 審査選考委員(第1次)
- 遠藤克彦 (建築家、茨城大学教授 ※選考委員長)
  - 忽那裕樹 (株式会社E-DESIGN代表取締役、ランドスケープデザイナー)
  - 佐藤真悠 (中井町民、わいがやサロン参加者)
  - 岩本明人 (中井町教育長)
  - 森 聡 (中井町総務課 参事兼総務課長) 当日欠席だった鶴井淳(中井町副町長=第2次審査委員)に代わり参加

農村環境改善センター研修室で行われた第1次審査の様子(noteより)

# モデルケースとなった透明性

## 設計者選定プロポーザル

中井町の町民の願いと思いが集まった、新たな施設と役場周辺空間が、すでに愛されたものとなっていると感じ、心が熱くなりました。これが新たなスタートでもありますが、すでに建築は始まっており、プロポーザルに応募いただいた図面や構想は、地層のようにこの土地に、また本町の歴史に、刻まれていると確信します。またこうした形での建築家との出会いはこれからの公共建築にふさわしいものとも実感しました。(プロポーザル町長謝辞より)



令和7年2月15日公募型プロポーザル参加者と選考結果

選定 SUGAWARADAI SUKE建築事務所  
 次点 アトリエコ株式会社一級建築士事務所  
 株式会社御手洗龍建築設計事務所  
 株式会社アトリエ・トルカ  
 株式会社YAP一級建築士事務所



公開型プロポーザルでの審査委員と5者の統括技術者による合同討議の様子(noteより) QRコードはその模様の動画

# 始まった設計プロセス

## 設計者選定プロポーザル

継続検討すべき項目も挙げられています。ランドスケープ外構計画には、まだデザイン検討の余地が大いにあることや、提案されている図書機能の配置やその使いこなし方には十分な検討が必要なこと、大きな屋根の詳細検討は十分に行うことなどです。今後は中井町担当課との詳細な打合せや、WSなどによる町民意見の取り入れなど、丁寧な民意の形成に留意いただくことを前提に、選定案となりました。(審査講評より)



設計者選定プロポーザル審査委員長である遠藤克彦氏は引き続き、建築的視点、費用的観点から、四半世紀ぶりの大型公共建築を手がける町に協力する

プロポーザルにより優先交渉権者となったSUGAWARADAIJUKE建築設計事務所と町、遠藤克彦氏らとの初顔合わせ

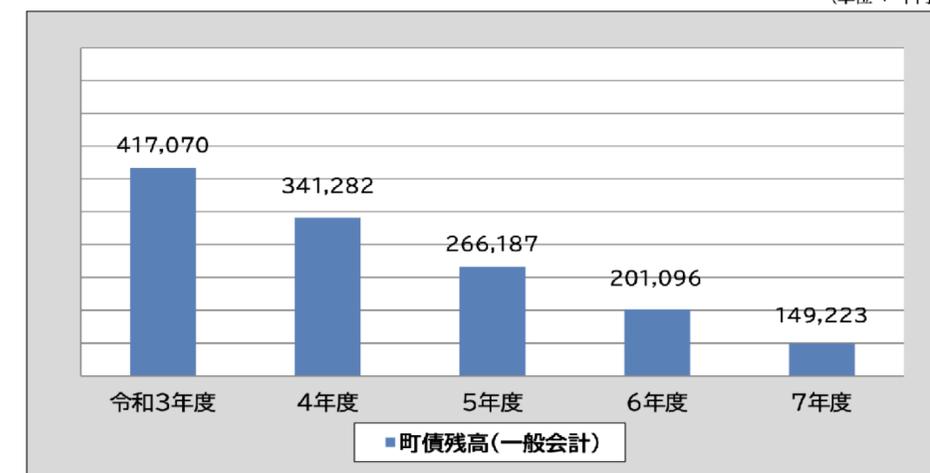
# 基金や町債、補助金を活用

## 中期財政推計に向けて

- 生涯学習施設は令和7年度より基本設計・実施設計に入り、令和8年度に着工、令和9年度中竣工で23.5億円程度を見込みます
- 令和6年度時点での基金は、財政調整基金21.3億円と公共施設建設準備基金10億円の計31.3億円となる。町債残高も2億円と減らしてきた中、基金の有効活用、町債借入や補助金活用を財源とします。
- 現在策定中の「第七次中井町総合計画」(令和8年度～)の前期基本計画に合わせて、中期財政推計を行い、より精緻な見通しをもって、財政運営にあたります。

町債残高の推移

(単位：千円)

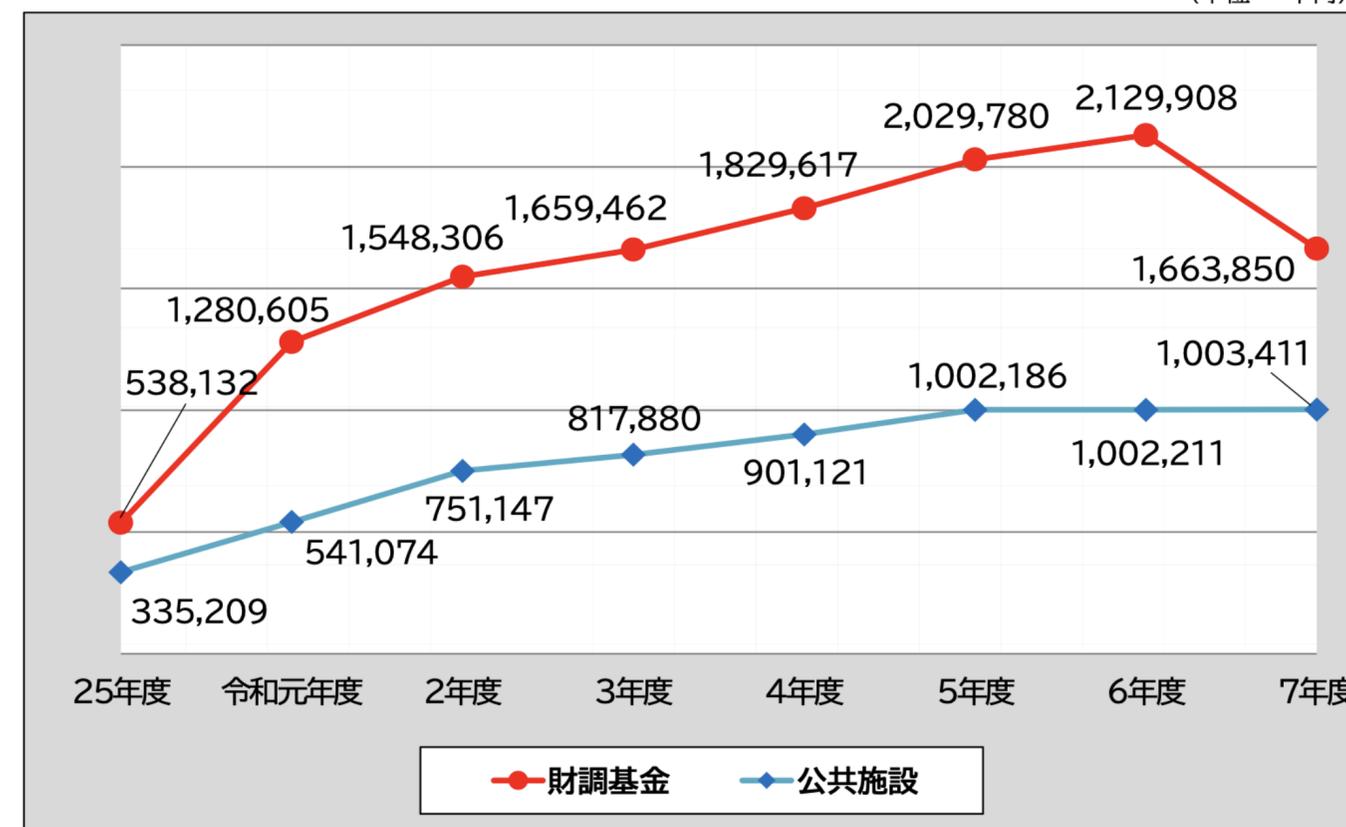


※ 令和5年度までは借入残高の額、令和6年度以降は借入見込残高の額です。

基金残高の推移

令和7年度末の財政調整基金と公共施設建設準備基金の合計残高は、26億6,726万円、前年度対比4億6,486万円の減となる見込みです。

(単位：千円)



※ 令和5年度までは決算額、令和6年度以降は予算額です。

# 使いこなす・使い倒す

”わいがや”から”わがこと”へ

令和7年度は生涯学習施設基本設計・実施設計に取り組む中で、引き続きワークショップ等を通して、

- ①基本構想・基本計画がどのように形になっていくかを分かち合い、
- ②開館後、どのように利活用していくかを、その組織作りも含み取り組み、作っただけで終わらない、施設を「使いこなす・使い倒す」取り組みに



- ③令和8年度以降は、生涯学習施設内の活動に留まらず、「館から環へ」の発想による他施設へのネットワークも含み、町ぐるみで、各地域が抱える課題へも展開につながります

# 環(ネットワーク)を地域にも広げる

”わいがや”から”わがこと”へ

## 生涯学習施設での活動例

図書館や公民館、郷土資料館での活動やその組織化

比奈窪56周辺広場での活動

ホール等を活用したイベント

生涯学習の相談体制づくり

井ノ口公民館等との連携

## 地域活動での活動例

巖島島湿生公園等の自然体験活動

五所八幡宮祭礼記録調査への協力

中村下地区や震生湖を含む境地区の活性化活動

移住定住支援のプラットフォーム

食と農、環境、竹害～竹財、美化運動等

防災減災への取り組み

町が何をしてくれるかから、わたしたちが何をしたいか、新たな施設や地域課題をどうしていくか？小さい町だからこそその挑戦